

令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の小田原市の結果について

1 調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査対象：小学校第5学年、中学校第2学年

3 調査事項および内容

- (1) 実技調査・・・新体力テスト（8種目）
 - ①握力 ②上体起こし ③長座体前屈 ④反復横とび ⑤20mシャトルラン（または持久走：中学校）
 - ⑥50m走 ⑦立ち幅とび ⑧ボール投げ（小学校：ソフトボール、中学校：ハンドボール）
- (2) 児童生徒に対する質問紙調査・・・運動習慣・生活習慣等に関する項目
- (3) 学校に対する質問紙調査・・・子供の体力向上に係る取組等に関する項目

4 調査実施日

- (1) 実技調査・・・令和3年4月～令和3年7月
- (2) 質問紙調査（児童生徒用、学校用）・・・令和3年7月

5 実技調査の結果

- (1) 体力合計点（平均）の経年比較

	小学校第5学年						中学校第2学年					
	男子			女子			男子			女子		
	市	県	全国	市	県	全国	市	県	全国	市	県	全国
R3	52.14	52.41	52.52	54.60	53.62	54.64	39.77	40.31	41.18	45.97	46.56	48.56
R2	新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止											
R1	53.66	53.17	53.61	54.84	54.25	55.59	43.65	41.71	41.69	50.74	49.66	50.22
H30	54.47	53.68	54.21	55.96	54.61	55.90	41.72	40.82	42.32	49.99	48.23	50.61
H29	53.90	53.41	54.16	54.50	54.34	55.72	41.59	40.62	42.11	48.13	47.82	49.97
H28	54.58	52.92	53.92	55.65	53.69	55.54	41.56	40.14	42.13	47.61	46.89	49.56

※体力合計点：8種目の体力テスト成績を1点から10点に得点化して総和した合計点

(2) 判定分布の経年比較 (男女平均値)

(単位：%)

小学校 第5学年	A (65～80)	B (58～64)	C (50～57)	D (42～49)	E (41以下)	D・E 合計
R3	10.3	22.8	33.0	22.4	11.6	34.0
(R3全国)	9.9	22.0	33.0	23.2	11.9	35.1
R1	12.4	25.5	33.4	20.1	8.6	28.7
H30	14.0	27.7	34.1	17.9	6.3	24.2
H29	11.5	27.0	32.2	21.2	8.0	25.9
H28	14.8	26.7	34.0	17.4	7.1	24.5

中学校 第2学年	A (57～80)	B (47～56)	C (37～46)	D (27～36)	E (41以下)	D・E 合計
R3	7.1	22.6	32.9	25.4	12.1	37.5
(R3全国)	5.8	18.3	31.5	27.4	17.2	44.6
R1	21.4	32.0	30.1	11.9	4.6	16.5
H30	19.4	29.5	30.3	16.0	4.8	20.8
H29	18.1	25.6	31.7	19.6	5.2	24.8
H28	15.2	26.8	34.8	18.0	5.3	23.3

※判定基準：8種目の体力テスト成績を1点から10点に得点化して総和した合計点を、括弧（ ）の基準によりAからEの5段階で判定する。

※四捨五入した元データ値（スポーツ庁集計データ）を用いて男女平均値を小数第2位で四捨五入していることから、A～Eの百分率の値の総和が100にならない場合があります。

○令和元年3月以降、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた児童生徒の体力テストの結果は、全国的に低下しました。小田原市の児童生徒も全国的な傾向と同様、体力合計点では最近の記録を下回る結果となりました。また、平成30年度小学5年生当時、男女ともに全国平均を上回っていた令和3年度中学2年生の結果が全国平均を下回る結果となったことは大きな特徴であり、引き続きコロナ禍で一定期間の運動機会が喪失してしまったことによる児童生徒の体力への影響についての検証・分析をしていく必要があると考えています。

○体力判定分布（AからEの5段階判定）については、運動を苦手とする児童生徒（D・E判定の合計）は、過去の結果との比較では低下しているものの、令和3年度全国平均との比較では、良好な結果となりました。これは、日頃の体育授業から「運動が苦手」または「得意ではないと感じている児童生徒」に対して技能習得や体力の向上を重視するのではなく、楽しみながら運動・スポーツに触れさせるよう授業計画や評価を工夫して取り組んでいる成果として表れているものと捉えています。

○コロナ禍にあっても、身体的な距離を確保しつつ運動特性に触れることができる、非接触でも楽しめるルールに工夫するなど、感染対策を講じながら児童生徒が身体を動かすことに楽しみや喜びを感じることを重視した授業実践が市立小中学校から報告されています。

(3) 種目ごとの平均値

*T得点:全国平均値を50点とした時の相対的な得点を示すもの

(全国比+は下線あり)

小学校5年生	男子				女子			
	小田原市	神奈川県	全国	T得点	小田原市	神奈川県	全国	T得点
握力 (kg)	<u>16.25</u>	16.72	16.22	<u>50.1</u>	<u>16.41</u>	16.48	16.09	<u>50.8</u>
上体起こし (回)	<u>18.98</u>	18.96	18.90	<u>50.1</u>	<u>18.86</u>	17.97	18.08	<u>51.5</u>
長座体前屈 (cm)	<u>35.87</u>	34.91	33.48	<u>52.7</u>	<u>40.51</u>	38.96	37.90	<u>52.9</u>
反復横とび (点)	39.79	38.76	40.35	49.3	37.98	36.50	38.72	49.0
20mシャトルラン (回)	44.23	43.99	46.83	48.8	35.34	33.90	38.15	48.3
50m走 (秒)	9.52	9.44	9.45	49.4	<u>9.63</u>	9.66	9.64	<u>50.2</u>
立ち幅とび (cm)	144.92	150.81	151.41	47.2	139.89	143.57	145.18	47.6
ソフトボール投げ(m)	20.43	20.01	20.58	49.8	<u>13.40</u>	12.81	13.30	<u>50.2</u>
体力合計点 (点)	52.14	52.41	52.52	49.6	54.60	53.62	54.64	50.0

○令和元年度の記録と比較して種目ごとの記録は全体的に低下していますが、コロナ禍によって運動機会が減少しても、その影響を受けにくい握力、長座体前屈の記録は向上しました。

令和2年度は、学校再開からしばらくの間、体育学習でも児童同士の身体的距離を確保した中でストレッチ体操や体づくり運動など個人で活動することを中心とした種目・領域を実施いただくとともに、呼吸が激しくなる運動や身体接触を伴う種目は避けるといった感染対策を各学校で徹底していたことによる影響ではないかと推察しています。

中学校2年生	男子				女子			
	小田原市	神奈川県	全国	T得点	小田原市	神奈川県	全国	T得点
握力 (kg)	28.57	28.71	28.80	49.7	23.08	23.15	23.43	49.3
上体起こし (回)	25.70	25.52	25.99	49.5	21.63	21.29	22.32	48.8
長座体前屈 (cm)	<u>44.30</u>	43.12	43.67	<u>50.6</u>	45.17	45.46	46.20	49.0
反復横とび (点)	48.73	49.61	51.19	47.1	43.65	44.62	46.25	46.3
持久走 (秒) <small>一部のみ実施</small>	424.28	409.44	406.38	47.5	317.53	305.03	297.62	45.7
20mシャトルラン (回)	<u>80.36</u>	77.96	79.88	<u>50.2</u>	52.85	50.69	54.24	49.3
50m走 (秒)	<u>7.94</u>	7.98	8.01	<u>50.8</u>	<u>8.86</u>	8.88	8.88	<u>50.1</u>
立ち幅とび (cm)	194.02	195.07	196.36	49.2	163.58	165.15	168.15	48.2
ハンドボール投げ(m)	<u>21.34</u>	19.94	20.31	<u>51.8</u>	<u>13.23</u>	12.22	12.72	<u>51.2</u>
体力合計点 (点)	39.77	40.31	41.18	48.7	45.97	46.56	48.56	47.7

○令和元年度の記録と比較すると全ての種目で記録が低下しました。中学生にとって、体力と部活動との相関は大きいものです。中学校2年生は、中学校入学の令和2年度当所からしばらくの間(4・5月)、臨時休業となり部活動を中止しなければならない期間がありました。その後も、緊急事態宣言の発出等により、活動内容の制限や対外試合等を禁止する期間があり、このことが体力低下につながった大きな要因であると考えています。

○「ハンドボール投げ」は、男女ともに全国平均を上回る結果となりました。コロナ禍での体育授業は、比較的感染リスクの少ない屋外種目、非接触型の種目を実施する傾向にあり、新たにソフトボール・ハンドボールを取り入れた学校が複数あったことなどが影響していると推察されます。

6 質問紙調査の結果

(1) 児童生徒質問紙調査の結果から

(単位：%)

小学校第5学年	回答	男子		女子	
		小田原市	全国	小田原市	全国
運動が好き	好き・やや好き	90.9	91.0	84.0	83.7
体育の授業は楽しい	楽しい・やや楽しい	93.9	93.8	90.9	89.2
運動は大切である	大切・やや大切	93.1	92.7	91.1	90.1
体育の授業以外の運動時間	1週間の総時間(分)	568.3	520.1	345.9	332.3
平日、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見る時間	3時間以上	50.3	41.4	42.8	34.0
	うち、5時間以上	20.8	16.0	14.6	11.5
できないことができるようになったきっかけ(複数回答可)					
・授業中先生に個別にコツやポイントを教わった		46.5	42.5	42.1	39.7
・授業中に自分で工夫した		39.4	35.0	35.5	32.5
・先生や友達のまねをしてみた		48.8	44.7	53.0	53.8
・友達に教えてもらった		52.8	46.0	61.2	58.6
・授業中に自分の動きを動画で見た		9.4	8.5	13.2	9.0

中学校第2学年	回答	男子		女子	
		小田原市	全国	小田原市	全国
運動が好き	好き・やや好き	87.6	87.5	73.1	75.5
保健体育の授業は楽しい	楽しい・やや楽しい	91.8	90.1	83.4	83.0
運動は大切である	大切・やや大切	92.9	93.2	89.0	89.4
体育の授業以外の運動時間(部活動の時間を含む)	1週間の総時間(分)	777.2	724.0	590.7	516.4
平日、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見る時間	3時間以上	53.4	43.8	47.7	42.0
	うち、5時間以上	18.0	14.9	16.4	13.6
できないことができるようになったきっかけ(複数回答可)					
・授業中先生に個別にコツやポイントを教わった		45.7	38.5	48.4	41.7
・授業中に自分で工夫した		46.5	40.5	36.7	35.3
・先生や友達のまねをしてみた		47.8	46.6	50.0	54.5
・友達に教えてもらった		53.7	51.0	64.6	64.2
・授業中に自分の動きを動画で見た		9.1	5.9	11.6	7.9

- 「運動が好き」と回答した校種別男女別合計値は、全国比(-2.1)ポイントでしたが、「体育/保健体育の授業が楽しい」と回答した校種別男女別合計値は、全国比(+3.9)ポイントとなりました。体育/保健体育の授業が楽しいと感じている児童生徒の割合が高いことは本市の特長であり、日ごろの体育学習が児童生徒にとって充実したものとなっていると捉えています。
- 体育/保健体育の授業では、児童生徒が自分で目標を立てるなど学習の見通しを持つことで、それまでに獲得している知識や技能をいかして自分で工夫する、仲間と協力して課題を解決したりしようとする態度を身に付けています。「できないことができるようになったきっかけ」のポイントは全国と比較して高くなっており、運動を苦手と感じている児童生徒にとって効果的な授業であることがわかります。
- テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン等の画面の視聴時間は、小中学校とも全国平均を大きく上回っています。対象となる全ての児童生徒の約半数が、平日3時間以上を視聴時間に充てています。全ての児童生徒の運動機会を確保することができる学校体育は、運動・スポーツを通じた健康づくりの視点からも大きな役割を担っていると考えており、今後も一層の体育学習の充実に努めます。

(2) 学校質問紙調査の結果から

(単位：%)

小学校・中学校	回答	小学校		中学校	
		小田原市	全国	小田原市	全国
体育授業について					
目標を児童生徒に示す	いつも取り入れている	52.0	43.9	100.0	67.4
学習したことをふり返る活動	いつも取り入れている	52.0	32.5	70.0	53.7
児童生徒が助け合い、役割を果たす	いつも取り入れている	40.0	36.5	60.0	46.3
児童生徒同士で話し合う活動	全ての学年で取り入れている	40.0	59.1	100.0	88.1
授業中のICTの活用状況	動きを撮影	84.0	79.7	100.0	79.9
	試合の様子を撮影	32.0	26.8	40.0	27.1
	以前の動きとの比較	44.0	50.9	50.0	43.0
体育/保健体育授業で、努力を要する児童・生徒に対する取組					
・授業中にコツやポイントを重点的に教える		76.0	90.0	90.0	87.6
・授業中に自ら工夫させる		64.0	44.0	30.0	41.3
・適切な場やルールを提示する		92.0	76.0	80.0	71.3
・友達同士での教え合いを促す		96.0	84.4	100.0	82.9
・授業中に自分の動きを映像で見る		64.0	43.4	60.0	40.7
学校全体で体力・運動能力の向上に係る取組					
体力・運動能力の向上に係る取組	行った（一部学年を含む）	60.0	79.4	60.0	50.7

- 小中学校の体育学習では、児童生徒一人ひとりが運動の意味を実感し、進んで運動に親しむ態度や粘り強く取り組む態度や生涯にわたって運動に親しもうとする態度の育成を目指しています。このため、全ての小中学校で、児童生徒が自らの学習の見通し（目標）を持つことや学習したことをふり返る活動を重視し、学習計画や発達段階に応じて適時適切に取り組んでいます。
- ICTは、合理的・科学的に課題を解決する力の育成に大きな期待ができます。撮影した自分の動きを観て、次々に新たな目標を設定しながら学習を進めていくなど、児童生徒が主体的に学習に取り組むためのツールとして大変有効であり、体育学習においてもICTを活用した学習課題や活用場面についてより一層の工夫・改善をしていく必要があると考えています。
- 学校全体で体力・運動能力の向上に係る取組を実施した学校は、小中学校ともに60%でした。コロナ禍で異学年が交流することや一堂に会する機会を設定できないなどの制約があり実施率が低調であったと推測されます。令和4年度も「生涯を通じて運動やスポーツに取り組む資質や能力の育成」を教育指導の重点の一つとして、体力向上を目指して取組を推進します。

7 今後の主な取組

<各学校において>

- 運動・スポーツを通じた健康で安全な生活を自ら営んでいくための知識や態度を育むことを教育指導の重点の一つにしていきます。
- 「新体力テスト」等により、児童生徒の体力・運動能力の現状を把握し、その結果を体育・スポーツ活動等の指導に活用していきます。
- 体育/保健体育の学習において、児童生徒の主体性を高める工夫に努めるとともに、運動・スポーツが苦手と感じている児童生徒への指導・支援について工夫・改善していきます。

<市教育委員会において>

- 体力・運動能力向上指導員やオリンピック・パラリンピアン等の著名なアスリートを小中学校へ派遣するなど、児童生徒の体力・運動能力や運動に対する関心・意欲を高める取組を推進します。
- ICTを活用した学習指導の工夫改善が図れるよう、教員対象の学習会や研究会を開催していきます。
- 児童生徒の体力・運動能力の向上に向けた情報提供に努めます。